

若葉萌え立つ

会長 鈴木 龍成

暖冬異変が話題を呼び、桜の開花の早まりが懸念されたりしましたが、自然の移ろいは着実に初夏の風情を醸しています。「目に青葉 山ほととぎす 初がつを」(素堂)の一句を吟じてみたくなる気候です。

岳精流日本吟院

ちよあ

第 2 8 号

平成 1 9 年 5 月

千代田岳精会弘報

平成十九年度岳精流指標

吟 楽

体制の千代田岳精会がスタートして六か月を過ぎようとしています。この間「昇伝審査会」を会員皆様の積極的な受審参加により、無事に終えることが出来ました。いつものことながらこの日まで教場での勉強を中心にして研鑽を積んでこられたご努力に、大いなる拍手を送りたいと思います。

吟友二〇〇名達成を正夢に

この五カ月間の会の動きについては、平生の活発な教場活動はもとよりですが、会一丸となつての大きな目標である「会員二〇〇名の早期達成」に向かつての計画と具体策が進められたことが挙げられます。この取組みは、これまでも色々な場面で打ち出されてきたりして参りましたが、今度こそ先ずはこれを実現しようと言うことです。それぞれの教場が吟友増加に取組み、新しい仲間の加入により教場が活気づくことが、お互いの吟力向上に大きなプラスをもたらしてくれるのではないでしょう。

このために、吟友勧奨のチラシを作つて、いろいろな場面で活用しようという動きもあり、また集まりやすい場所、小グループの吟練習の場を設けて新しい仲間を誘う計画も進められています。会としても、こうした動きに対応しては、いろいろな方策(例えば「指導プロジェクトチーム」の編成など)をもっとバックアップを行なっていくことにしています。

当面、十月の「温習会」には新しい

吟友を交えて「二〇〇名祭り」を実現しようというのが目標です。

千代田の強さについて

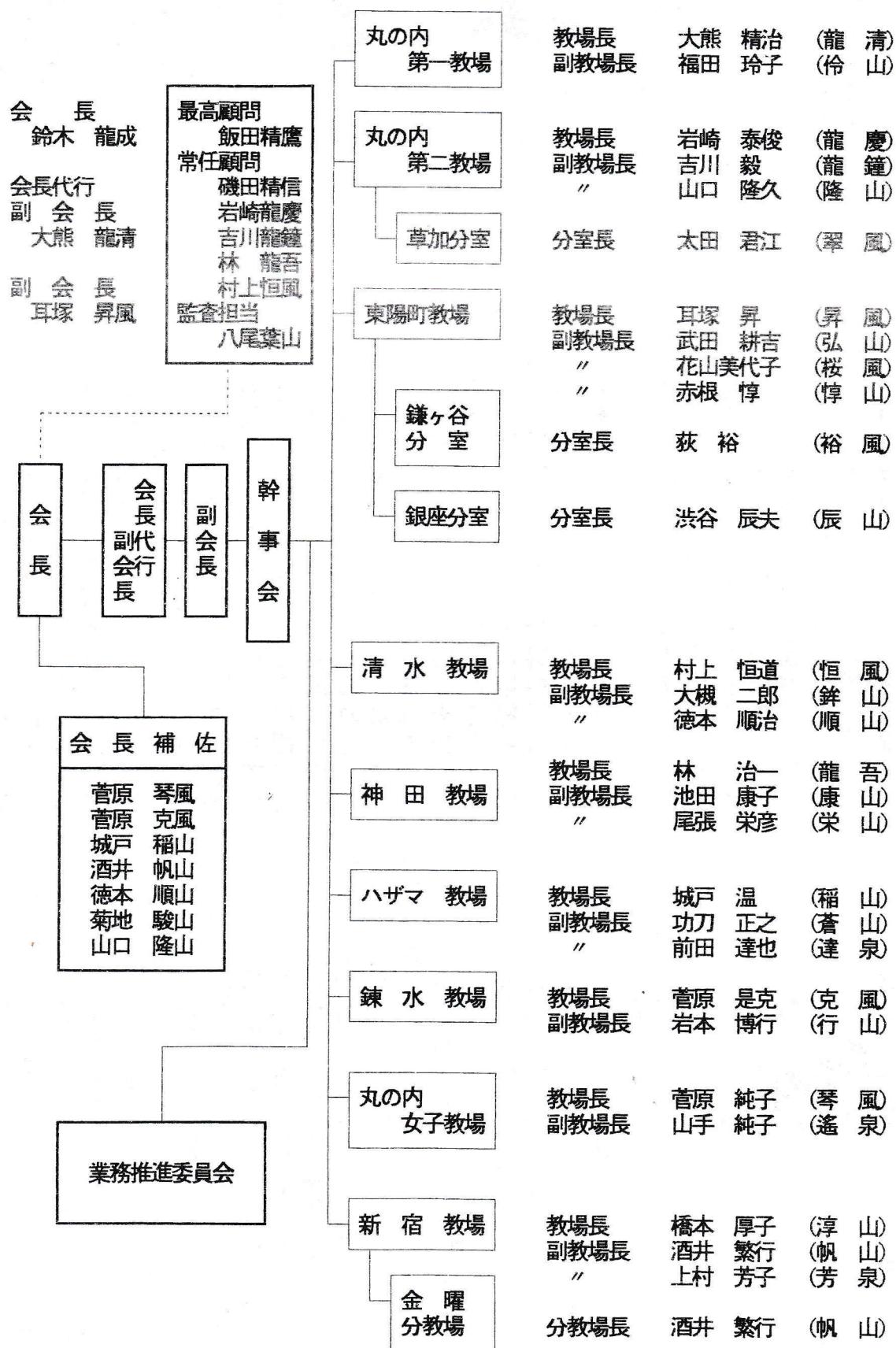
昨年の「二十周年記念大会」の成果については再三語られてきていますが、わが千代田岳精会としての強さが発揮されたのは、「結集力」と「会員の能力の高さ」でしよう。それを総合した「組織力」の強さは抜群です。この中であつて、相互研鑽の場を通じて幅広い吟の世界の知識と技術を磨いていくことが期待されます。それぞれの教場での研修の充実に加えて「詩歌研修」「演奏担当研修」そして新たに「スタートした」「剣詩舞研修」などへの積極的参加、そして本部主催の諸研修への参加も、我々の吟力向上に繋がつていくことは申すまでもありません。平成十九年の指標「吟楽」は、これから私の私共の吟へ向かう姿勢の在り方を示しています。吟の奥深さ、幅広さを確かめつつ、この道に精進していきたくものと思います。



星野久山 (清水)

平成 19 年度

千代田岳精会教場組織図



春の昇伝審査

十七名の方が初めて受審



汗ばむような陽気の四月廿一日、市ヶ谷の宮崎県東京ビルで開催の昇伝審査は総本部から、和田精栄副幹事長、山城龍和指導本部員両先生を審査員にお迎えして開催された。

今年の受審者は総数九九名で、うち初受審者は十七名と、昨年より始まった「吟友の輪」運動の成果が現れていることが大きな特色と言える。終了後の総評で山城先生は「千代田はモチベーションの高い会として岳精流のなかでも有名です。二〇〇名になんなんとする会で、量と質、特に初心者の技術の高さに感銘しました」との過褒を頂きました。

平成十区年度昇伝者（敬称略）
お目出とうございます

中伝 草加分室

清水

全

ハザマ

全

全

丸の内女子

初伝

丸の内第一

草加分室

清水

丸の内女子

新宿

青木 恭山
渡辺 華山
古川 翠山
仙田 土山
二宮 祥山
前田 達山
山手 遙山
関 昌泉
大井 俊泉
武藤 孝泉
本多 凜泉
上村 芳泉

初伝審査を受けて

丸の内第一 関 昌泉

故平井紅風先輩の誘いで詩吟を始め、四年もたったことは自分でも驚いておられます。こんなに長く続けられたことは、教場の先生及び諸先輩のお陰と感謝しています。平井先輩が亡くなった後は、不安に思っていました。が、教場の良い皆様のお陰で続けることが出来ました。

今回の試験の半年近く前より体調をくずし病院通いをしており、四月から復帰して三回目です。初伝審査の受験になりましたので、吟じられるかどうか心配でした。七十歳を過ぎて詩吟を学べるとは思っていませんでした。これからは思っています。指導を頂き精進していきたいと思えます。有難うございました。

趣味は詩吟と言えらるるうちに

清水 武藤 孝泉

このたび初伝の審査を受ける際「受審料が上がったナ」位の思いでしたが、「泉」が着くんだよ」と言われて、エッという感じでした。三年半前に教場を見学に訪ね、言われるままに続けて来たのでしたが、最

近は地元での奉納演芸、誕生会、特別養護老人ホームなどで吟ずる機会が増えたこともあり、実際初伝の重みを感じています。また教場長から「詩吟の声になって来ましたネ」と言われることもあり、磯田先生のお言葉ではありませんが「吟キチ」の入口に立ったのかも知れません。これから上のクラスの研修にも参加できると思いますので、声を出す機会を増やし、漢詩の勉強もして、自分なりに納得出来るよう努力したいと思つた。詩吟」と言えるようになりたいと思つております。初伝を戴けたことを諸先生に感謝するとともに、今後共の指導を宜しくお願い申し上げます。

昇伝審査を終えて

草加分室 大井 俊泉

岳精流に入った訳は、コンクールに出る吟を磨き、そして昇伝試験を受け、毎年昇段していくことが出来るという所に魅力を感じたからです。吟も切磋琢磨してやっていくことで、励みとなり、やっていると楽しくさを感じることが出来るようになっていくものと思えます。

今回、初伝の審査を受け、合格することが出来て、本当に喜びで一杯です。会場では、五番目に私の番になりました。前二回の昇段審査と同様に多少緊張しましたが、吟じ出すといつも調子が戻り吟じ終えることが出来ました。

山城先生より「初伝は、吟の基礎がきちんと身に付いているかどうかを調べますが、十分に身に付いています。ただ、呼吸が更に良くなると吟がもっと良くなります」と、ご指導を頂きました。ご指摘いただいた所をこれから吟の練習に活かして、吟の上達に励んでいきたいと思っています。

なお、草加分教場では、日頃、岩崎先生には厳しいご指導を戴きまして、本当に有難うございます。今後とも宜しくお願い致します。

初めて雅号をいただいて

丸の内女子 本多 凜泉

詩吟を習い始めて四年、この度「凜泉」という雅号をいただきました。この名は、自分なりにいろいろ考え、先生にも相談をさせて頂いて決めました。今はまさに新年度「真善美」に「努力と希望」を入れたランドセルを背負って、新一年生になれる日をワクワクしながら待ち続け、今日この日に雅号を頂きまして、誇らしさと喜びで胸が近は地元の奉納演芸・誕生会・特別養育原教場長はじめ諸先生のご指導を頂き、また、教室の皆さんのお陰様で楽しく学ばせて頂いております。心より深く深くお礼申し上げます。

雅号を頂いた事は、私の人生にとりまして大きな節目。自分の生き様のス Tepp アップに繋げていける様、厳粛な気持ちで初心を忘れる事無く受けと

めていきたいと存じて居ります。本当に本当に有難うございました。

総本部役員人事（一月一日付）

○相談役 最高顧問 飯田 精鷹

○広報部 副部長（丸二） 八田 玉山

○幼少年部 副部長（新宿） 橋本 淳山

現在総本部には、この他次の方々が役員として在任されています。

○副幹事長 常任顧問 磯田 精信

○婦人部 副部長（丸女） 菅原 琴風

○庶務部 副部長（錬水） 菅原 克風

○研修学術部 副部長（丸二） 山口 隆山

○事業部 副部長（神田） 池田 康山

○吟友の輪 プロジェクトメンバー（新宿） 酒井 帆山

○指導本部員 飯田 精鷹

神田教場長 林 龍吾

丸二教場長 岩崎 龍慶

吟剣詩舞導連盟合吟コンクール

総本部では、昨年の女子に続けと男子が平成七年以来十二年振りの優勝を目指して出場します。「凱旋」乃木希典作三本に各教場より廿一名の応募がありました。五月十四日から、半年の猛特訓が重ねられ、十一月十一日に武道館の大舞台への挑戦となります。しっかりと基礎を学ぶ得難い機会です。参加者の研鑽を期待します。

岳精流創流三十周年記念
全国吟道大会

日程 六月廿四日（日）

場所 川崎教育文化会館

今年は、記念大会のため、合吟コンクールは行なわれません。

全員合吟は、男子「汪倫に送る」李白作、女子は「松竹梅」松口月城作と決まりました。

丸一、東陽町、丸女教場が田園支部と昼食関係を担当します。

平成廿年度昇伝審査指定吟題

初伝

母を奉じて芳野に遊ぶ 頼 山陽

宇文六を送る 常 建

中伝 新涼書を読む 菊池三溪

千日紅を詠ず 梁田蛻巖

短歌 くれないの 正岡子規

いちのはつの 正岡子規

奥伝 昔遊を念う 杜 甫

八月十五夜月前に旧を語る 菅原道真

俳句 行く春を 正岡子規

松山や 正岡子規

皆伝 秋 興 杜 甫

墨水秋夕 安積良斎

平常心で今年も入賞者続々



春先の風物詩ともなっている吟剣詩舞道吟詠コンクール。今年も港、品川、大田区予選に総数五七名が出吟。優勝二名をはじめ廿三名が堂々の入賞を果たし千代田のレベルの上昇を示した。このうち初入賞者が十名と層の厚さが増していることが特色と言えよう。上位入賞の十四名の方々は五月開催の東京都大会に出吟されました。

◇港区予選 (三月十八日)

青年の部 優勝 本莊明日香 (銀座)

一般一部 二位 伊藤 浩山 (鎌水)

五位 高橋 道子 (銀座)

一般二部 十二位 武藤 孝泉 (清水)

入賞 青木 恭山 (草加)

入賞 花山 桜風 (東陽町)

入賞 萩原 晴泉 (ハザマ)

一般三部 優勝 城戸 稲山 (ハザマ)

五位 渋谷 辰山 (銀座)

八位 八田 玉山 (丸二)

十位 植村 太山 (鎌ヶ谷)

十一位 菊地 駿山 (東陽町)

十二位 宮武 保山 (清水)

入賞 仙田 土山 (ハザマ)

入賞 山本 忠次 (ハザマ)

入賞 望月 輝夫 (清水)

入賞 田中 香風 (丸二)

入賞 前田 達山 (ハザマ)

◇品川区予選 (三月二十一日)

一般二部 四位 菅原 琴風 (丸女)

十位 山手 遙山 (丸女)
入賞 加藤 有泉 (新宿)
三位 岡部 貞夫 (新宿)
六位 山手 英山 (清水)

※山手ご夫妻の都大会出場が特筆。

初入賞者から寄稿頂きました。

港区コンクールで入賞

鎌ヶ谷 植村 太山

平成十四年初出場以来六回目の挑戦で初入賞出来ました。

吟題は「江上の船」平成十一年一月

入会最初に習った吟題です。吟は出だ

しが大事「一道の長江」を重点的に

練習する。これまで毎回指摘されてい

たのですが起句の途中から音程が上が

り一定しない。二年前本数を二本から

三本に上げた所、少しづつ良くなって

きました。今回は出吟者がいつもより

廿人位少なく、岳精流から四十人と流

派別では一番多く、一般三部でも欠吟

者や失格者もあり、十位に入れたのも

幸運だった。

この度は東京都大会に出吟する事にな

り、なお一層の練習を重ね良い結果

が出るよう頑張りたいと思います。ご

指導頂いた岩崎先生はじめ諸先生方の

お陰と感謝しています。今後とも宜しくお願いいたします。

吟詠コンクールに参加して

新宿 岡部 貞夫

初参加、初入賞全く驚いています。

馬齢を重ね、杯を重ねてこの歳になる

と人間厚かましくなり、初舞台で最上

限の力が出せるものかと妙な感心をし

ている処ですが、これ偏に、橋本・酒

井両先生のご指導と、互いに切磋琢磨

した新宿教場の皆様のお陰と感謝して

います。

想い起こせば一年半前、病後のリハ

ビリにもと軽い気持ちで参加したのが、

橋本先生の褒め上手に乗せられて続け

ているうちに、或る日突然厳しい指導

に変わった時には、もうすっかりハマ

っていて、範吟が一人寝の子守歌にな

っていました。範吟を懸命に真似て練

習しては教場で直される繰返しの間に

少しづつ上達する様が自分でも判るの

が嬉しく、段々没入して行つたようで

す。然し今回の結果は正に出来過ぎで、

都大会は、それこそ呼びでない処の

ようですから、勿論練習は精一杯続け

ますが、気持ちを楽にして行つて参り

ます。

ともあれ、「千の風」になるのはも

う少し先に延ばして吟を楽しみ、足腰

の達者なうちに詩蹟など巡ってみたい

ものと、夢を膨らませている今日この

頃です。

幻の詩情を求めて

ハザマ 前田 達山

私が岳精流に入門して暫くして、吟劍詩舞道連盟コンクール出場者の募集がありました。早速出場しましたが、入賞せず、以来毎年出場しては入賞出来ませんでした。六年目となる今回ようやく港区連で下位の入賞を致しました。先輩諸先生方のご指導がようやく実を結んだと心より感謝しております。

三年程前、宗家（現家元）から私は「貴方の吟は形は出来ている。今後詩情を心がけて勉強するように」とのご教授を頂戴しました。先輩諸氏の吟と比べて私の吟は確かにのっぺりと平面的で「何か」が足りません。吟劍連盟のコンクール採点基準では詩心（詩情表現の的確さ、味があるかどうか）に三割の配点をしているとのことでした。さて詩情は「①詩のもつ趣、また、詩的な味わい。②詩に表わしたいという気持ち。」とあります。それ以来私は、作詞時の作者の気持ちになつて吟じることが肝要であろうと解釈致しました。とは言っても具体的に何処をどうするかは全く五里霧中、手探り状態で、詩情を求めて吟に励んでおる現状であります。私も今回の入賞と、中伝への昇伝を迎えて、今年は吟道の区切りの年と愚考いたします。諸先生方の一層のご教導を切望しております。

吟詠コンクール初出場初入賞

清水 望月 輝夫

清水教場に入つて漸く一年が過ぎ、先輩から「コンクールに出ることは今後に役立つから出たら」と言われ「はい」と素直に出場を決めた。しかし出場経験のある先輩から、舞台での緊張からの誤読や絶句等の話もあり、名前が印刷されたプログラムを前にして、次第に不安が増してくる。

いよいよ当日、出番の十五分ほど前に先輩から「平常心でいけ」と後押しされ、まず洗面所で衣服を正し、待合場所の廊下へ向かう。そこには出番待ちの出場者の方々が椅子に座つて、天井を凝視したり或いは床に目を落としたり、目を閉じたりと、夫々に精神の統一を図っているようでした。舞台から聞こえてくる吟詠が耳について、自分の吟題「感あり」の出だしが不安になつてくる。発声練習「サセシスセソ」を呼ばれて舞台中央のマイクの前に立つ。吟の出来、不出来は別として姿勢はきちつとしたいと思ひ、ご指導いただいた立ち方・目線・手の位置・構えを整えて吟じました。不安だった絶句もなく終了。席へ戻ると、先輩から「良かったよ」と言われホッとしました。審査結果発表で一般三部の一位から順次廿名の入賞者氏名が発表され、思ひがけずも自分の名前がありました。先輩から「お目出とう」の声をかけら

れ感無量でした。賞状を手にして、これからは入賞に恥じないよう一層の精進をしなければと誓った一日でした。

港区吟詠コンクール初入賞

銀座 高橋 道子

詩吟を始めて三年目の私が、港区吟詠コンクール一般一部に出場し、入賞出来たのは、皆様の応援と、参加者が六名だったという事、そして大先輩の本莊麗山さんが当日欠場されてしまったからという、お恥ずかしいラッキーでしかありませんでした。渋谷分教場長、本莊明日香さんと東京都大会出場というご褒美まで頂きました。

参加できれば良し！という気持ちで一杯でした。というのも、今年は年女で「ちよだ」に「猪突猛進で頑張ります！」と宣言させてもらったばかりだったからです。

まだまだ味わいのある吟には程遠く、地声の粗削りですが、先生の「大きな声でよろしい」と言われるままにここまで来てしまいました。このまま自分らしく大きな声で、長く続けて行きたいと思ひます。どうぞ宜しくお願いいたします。

吟詠コンクールの感想

銀座 本莊 明日香

詩吟を始めて約一年がたちました。今回コンクールの話を頂いた時、私に

はまだ早いと思いました。しかし先生の後押しもあり、参加することにしました。

舞台の上で一人で吟ずるのは初めてでしたので、少し緊張しました。しかし実際に舞台の上で吟ずるのはとても気持ち良く、楽しい事が出来ました。反省点をあげれば、限りがありません。大きな失敗も無く、吟じ切ることができて、自分ではとても満足のいく吟でした。

このコンクールでの経験を生かして、今後はもっと素晴らしい吟となるよう努力していきたいと思っています。

神田教場開設十周年記念初吟会

まだ新春気分が残る一月十一日、神田如水会館に飯田精鷹最高顧問はじめ千代田岳精会幹部、教場長等十一名のご出席で開設十周年記念初吟会を会員全員が役割をもって参加し開催した。式典では、まず松本寿、赤沢弘三、町田湧山、粕川恒泉四名の物故者への黙祷が捧げられ、林龍吾教場長挨拶、鈴木龍成新会長の挨拶を頂き、会員の吟詠に移る。

伴奏を尺八の栗城笙童先生にお願いして合吟、男子「桂林莊雑詠諸生に示す」その一、広瀬淡窓作、女子「新年を迎う」宮崎東明作に続いて昨秋以来練習を重ねた全員十六名の独吟が披露された。来賓の皆さんより、それぞれ心の籠

もった祝吟を頂き、林教場長の「勸学」陶潜作を最後に、花束贈呈、「富士山」合吟で初吟会は順調に閉会した。

懇親会では、飯田最高顧問の祝辞、磯田顧問の乾杯で始まり、佐藤璃風、河合朝香作の俳句四題が披露されたが、特に、田中宏明さんの「相撲談義」は興味深い内容に加え豊富な知識に参加者の関心を集まり好評であった。

最後は「神田教場讃歌」林龍吾作、「祝い船」を全員で歌い盛り上がる中お開きとなった。司会、挨拶、合吟先導と皆さんが役割りを担当したよい会であった。

(福島 起風)

ハザマ教場創設十周年記念大会

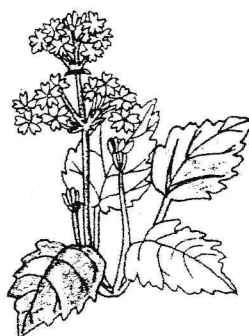
三月七日、「ハザマ教場創設十周年記念大会」を神宮外苑の日本青年館で開催した。開会にあたり、これまで物故された五名の方々への黙祷、来賓ご挨拶では残念ながら飯田精鷹最高顧問が体調不良のため欠席。鈴木龍成会長、鈴木捷夫ハザマ社友会関東支部長挨拶と続き、教場会員吟詠に入る。

入会一年未満六名、休会明け一名、負傷療養中のため車椅子、松葉杖三名の方の紹介を含めての吟詠。そして、ご来賓の模範吟を拝聴する。

祝賀吟詠として、ハザマ施工「名古屋城復興」と「黒部大堰堤竣成祝詩」を教場会員で合吟、最後に大合吟「富士山」で閉会となる。

懇親会での庄巻はカラオケが始まってからで、尺八伴奏の栗城先生の「霧子のタンゴ・フランク永井」や中川睦山の藤山一郎ばりの歌が始まると、菅原、橋本両教場長、窪田香風さんを中心にした踊りが始まり、すっかり盛り上がった。

(仙田 土山)



平成十九年度温習会

今年の温習会は神田、ハザマ、錬水教場の担当で、次の通り開催します。

日程 十月六日(土)
場所 豊島区南大塚ホール
JR大塚駅南口から徒歩五分

詳細については、構成の研修部門、設営の事業部門で企画され、改めてご案内します。

「吟友の輪」拡大キャンペーン

動き始める組織の千代田



平成十八年度から、岳精流の全国運動として展開している「吟友の輪」拡大キャンペーンに和して、会員二〇〇名を目標にわが千代田は一月の鈴木会長の就任を機に、業務委員会（山口隆山委員長）で主要テーマとして取り組んでいます。

一、休会者への復会声かけ
現在、夫々の理由で休会の方が三十五名。これらの方々へ復会の声かけを行ない、一月以降三名が復会となった。今後も地道に続けます。

二、各教場で見学会実施
まず教場を見て貰おうとちらしを作成し、女子、東陽町、神田、新宿教場で実施。夫々今後へ繋がる成果が報告されており、他の教場も状況に合わせ計画が進んでいます。

三、明治安田生命友和会（OB会）への積極的働きかけ
五月十二日の明治安田生命友和会

明和会分会懇親会で教場見学のお誘いちらし六五〇枚を配布した。また社友会分会でも十七日の懇親会で資料にちらしを添付させて貰う運びとなっております。

四、拠点作りの展開
教場の枠に把われず、通い易い場所を探し既に後記の拠点が稼働を始めております。

☆神楽坂（東陽町）

勝村忠三氏の自宅を会場に、四月から第一・三金曜日に開催され、教場長はじめ複数のスタッフが指導を行なっており、現在四人の新しい方が継続して出席している。

☆日暮里吟詠クラブ（丸二）

本多弘山氏を代表者として六月第一・第三金曜に開設し、まず詩吟に馴染んでもらおうと短歌からスタートの予定。場所はJR日暮里駅から五分の「日暮里ひろば館」荒川区西日暮里二一〇一九※どちらもアクセスの良い場所です。支援体制について検討します。



新宿金曜分室が開設されました

新宿教場（橋本淳山教場長）では仕事で昼間の教場に出席が難しい会員を対象に、五月一日付けで新宿金曜分室を分離、明治安田生命新宿ビルB1会議室で開設されました。第二・三・四金曜日の一七時～一九時に行なっています。分室長は酒井帆山新宿教場副教場長が兼務します。千代田岳精会は九教場四分室体制となりました。

研修部門本年度計画

◎研修会

□初心者研修

年三回 第五木曜日 一五時～一七時

□上級者研修

年二回 第五木曜日 一七時～一九時

◎詩歌研修担当

一月から、中国古代史から取組む事となり、毎月第四水曜日に参加者が決められたテーマに挑戦し、解説を担当、発表している。

◎演奏研修担当

一、各教場に二名以上の伴奏者を養成。
二、初心者者の基礎研修の充実、及び更なる熟練の為の研修。

三、温習会で発表
を目標として二月から第四水曜日に開催している。

◎剣詩舞研修担当

新年度、正式に発足すべく準備を進めてきたが、千峰流剣舞宗家金子千峰先生（澄泉）の指導で四月から第一・三月曜日に開催の運びとなった。
萩原晴泉氏（ハザマ）がリーダーを担当される。

千代田岳精会人事

○会長補佐（一月一日付）

菊池 駿山

○新任副教場長（四月一日付）

上村 芳泉

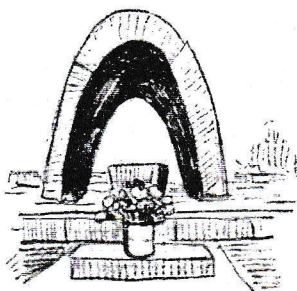
新宿教場

本部全国研修会で入魂の吟詠 宗家作詩「撫子」

東陽町教場八尾葉山氏が、広島原爆で亡くなられたご両親、長兄から疎開先の兄妹に送られた書簡をまとめた私刊本「撫子」を読まれ、その家族愛に打たれた宗家が、心に響く思いを綴られた四十六句の長編古詩「撫子」が三月廿五日川崎溶接会館で開催の全国研修会で披露、指導された。

当日は、八尾葉山氏も出席され、千代田各教場からの多数の参加を含め、三〇〇名を越し補助椅子を出す盛況。過酷な現実を、淡々と文章にした兄妹。それを読み心に沁る思いを長編の漢詩とした、正に作者・宗家の入魂の吟詠は、前澤龍淳先生の朗読、シンセサイザー伴奏と合わせて、参加者に肅然たる思いと深い感銘を残した。

「撫子」は三月の一吟詩として全会員に配布しています。まだ読まれてない方ぜひご一読を。



漢詩（九）

田園詩人「王維」

銀座分教場長 渋谷 辰山

今回は李白、杜甫と共に盛唐を代表する詩人王維を紹介します。王維と言えば送別の詩として有名な「元二の安西に使いするを送る」を先ず連想される人が多いでしょう。陽関三疊「無かる人無からん故人無からん」と繰り返す吟ずること別れの酒は一層しみわたる。将に送別千古の絶唱ですね。

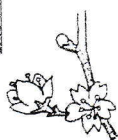
王維（七〇一〜七六一、一説に六九九〜七五九）字は摩詰、山西省太原の生まれです。幼少の頃から書画、詩文、音楽に秀で、十五歳で都長安に出ると、玄宗の皇弟岐王を始め多くの貴族に目をかけられて上流社会のアイドル的存在となりました。廿一歳の若さで進士に及第。一時のつまずきはあったものの順調な役人生活を送り、その閑々に別荘の輞川荘で友人達と閑適の時を過ごしました。親友の裴適と唱和した「輞川二十景」の連作は有名で「竹里館」「鹿柴」などの名品が収められています。

しかし、五十七歳の冬に安禄山の乱にあい、脅迫されて叛軍の政府に仕えたため平定後その罪を問われましたが、弟王縉等の懸命の取り成しなどにより死罪を免れ官を下げられただけで済み、最後は尚書右丞（書記官長）で逝去しました。

ました。王維は陶潜、謝靈運の流れを汲む田園詩派の第一人者で、孟浩然、韋応物、柳宗元とあわせて王孟韋柳と呼ばれています。古詩・近体詩ともよくしきましたが、特に五言律詩・五言絶句を最も得意としました。画にも秀れており、それ迄の彩色画に対して、墨だけで描く描法を開拓し、南宋画の祖と仰がれました。その詩画については「詩中に画あり、画中に詩あり」と評されています。また熱心な仏教信者で、その人生観・文学観も仏教的静寂の境地に達していたので、李白の詩仙・杜甫の詩聖に對し、詩仏と言われています。

なお、広い交友の中に晁衝（阿倍仲麻呂）が居り、仲麻呂が日本に帰るとき王維が贈った詩「秘書晁監の日本国に還るを送る」には困難な海上航路を想像して親友の旅立ちを案ずる気持ち、が、伝わって来ます。

爛漫の桜を愛でた春の吟行会



暖冬で葉桜を覚悟していたが、間際の低温で千鳥が淵の桜を楽しみ宮崎県東京ビルに四十六名が集まり、例年通りのお酒と料理で吟楽の春宵一刻に一同酔い痴れてお開きになりました。世話役の吟楽部門の皆さん、ご苦勞さまでした。

『新会員紹介』

◇丸の内第二教場
田尻 映代さん（二月入会）

田中香風さんの在職中の大切なお客様。昨年来何度も教室見学、記念大会にもお招きして入会となりました。センス良く声量豊かで、熱心に勉強され昇伝審査で本場に初めてすすかと確認されたほど。交遊関係も広く、吟友拡大でも楽しみます。

菟場 直一氏（五月入会）

姓は「ぬたば」と呼びます。高橋辰山氏の学校、会社の後輩の技術屋さんでOB会で勧められ、四月最後の教場を見学、即入会となりました。播州赤穂出身で、趣味は小唄、小節の利いた渋い声とうかがっており、素養十分と期待しています。

◇東陽町教場
橋本 隆一氏（五月入会）

秋田生まれで日本郵船のOB。現役の頃は世界の海を巡ったマドロスさん？また頑強な体軀で三菱クルーズ選抜ラガーとしても活躍したスポーツマンです。定年後は趣味の俳句に夢中で家にじっとしていることは少ないようです。たまたま出向した「明和ブーズ」で一緒に勤めた縁で「俳句の勉強の為に詩吟は役にたちますよ」という話法で勧誘し、入会していただきました。

◇銀座分室
増子 絵梨さん（二月入会）

千代田岳精会創立二十周年記念大

◇ハザマ教場
関川 慶介氏（二月入会）

会の奉祝番組で日剣連刀法を親友の本荘明日香さんと共演したのが縁で入会。明るく素直で音感も抜群。詩吟の勉強に熱意を燃やす将来大いに楽しみな二十代前半のお嬢さんです。

ようやく体調も回復して、期待の大型新人の登場です。新入社員時代からの刎頸の友である萩原晴泉氏の紹介で入会。カラオケは抜群の実力の持主との事、吟の成長楽しみです。人脈の広い関川氏の入会で教場の拡充発展が期待されます。

松尾 洋輔氏（四月入会）

金子千峰宗家の剣詩舞の門下生で、吟の高尚な雰囲気の中で、先ずは少しでも詠ずる様になりたい。又剣舞上達の相乗効果を期待しての入会です。趣味は仏像鑑賞と寺社巡り、正に剣舞の達人であり、昔の武士そのものの風格を備えられた人物です。

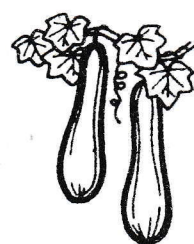
◇丸の内女子教場
菅原 伸治氏（三月入会）

菅原教場長のご主人で明治生命のOBです。咽喉のポリープ切開手術で声が出ないと断わり続けてきましたが、教室に男性会員一人と聞き寂しいだろうと来てくれました。声が出ないので歌わせないと条件付きでしたが、現在水四本で頑張っています。

橋本佐和子さん（四月入会）

本多凜泉さん一瀬 昭子さんと趣

味の五行詩で一緒にした。明治安田生命大手町営業所の現役です。教場の無料講習会に二人で来て下さり、本多さんの後押しもあり、入会して下さいました。一瀬さんはご家族の都合で六月入会となり、一歩先の入会となりました。



◆稲井 碩風氏（丸の内第二）

三月廿八日逝去されました。享年七十六歳、ご冥福をお祈り致します。

編集後記

最近何かと千代田は、注目されていると感じます。それは準師範以上が四〇%を越え壮年期に入った段階で、鈴木会長への交代をはじめ、組織の若返りを絶えず考え、順調に世代交代を進めていることが大きいでしょう。

「吟友の輪」キャンペーンが会全体で創意工夫と行動力を取り組まれ、色々和将来に繋がる成果が幾つか現われています。この流れをしっかりと掴んで飯田最高顧問の夢、東京三〇〇名の実現への着実な歩みとしたいものです。

（八田）